

単元名 正負の数（東京書籍）

本時 24/25 時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

正負の数で学習した内容を、他者に伝える活動を通して、正負の数を多面的に捉え直すことができる。
(思・判・表)



目的に応じて、適切に物事を要素に分ける。 Stage3

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の中の分解と抽象化の思考を取り入れ、学んだことを他者に伝えるために、正負の数を分解し、伝えたい要素を抜き出す活動に取り組む。この活動を通して、正負の数を多面的に捉えやすくなり、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ
(展開を想定)

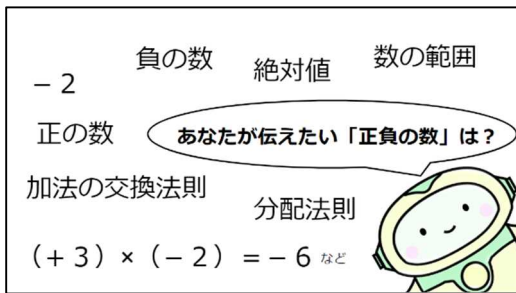
●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

※学習ツールを使用する際の留意点

導入

- 1 正負の数で学んだことを発表用スライドにまとめるために、必要な要素に分ける。



- ※正負の数で学んだ用語や、計算例の一部を提示し、生徒が発表のイメージを持てるようにする。
- ◇要素の一部を提示することで、生徒が目的に応じて更に要素を見付けることができるようにする。
- ◇クラスの実態に応じて、個別やペアなど、活動の形態を変える。

展開

- 2 発表スライドに入れたい要素を吟味する。

- 「学んだことを友達に伝えるために、発表用スライドを作成します。特に伝えたい内容を教科書やノートから選び、スライドにまとめましょう。」
- ※Google Classroom にリンクを貼る等、生徒がスライドにアクセスできるようにしておく。
- ◇スライドの構成が思い浮かばない生徒がいた場合は、教員があらかじめ作ったスライドを見せてもよい。その際には、分解した要素の関連性が示せていない等の改善の余地があるスライドの方が望ましい。

- 3 選んだ要素を基に、発表スライドを作成する。

- ◇発表時間、スライドの枚数を指定することで、聞き手に内容が伝わりやすい発表スライドを作成させるようにする。
(例：発表時間3分、スライド3枚以内)

- 4 発表の練習をする。

- ◇発表練習の機会を作り、聞き手の立場で発表内容を捉えさせ、適切な要素を選んでいるか吟味したり、要素の選び直しをしたりさせる。
- ◇本時は、大まかな発表の流れをスライドにまとめることができているならばよいことを伝える。

終末